

かめだより

発行：医療法人鉄蕉会 亀田総合病院/地域医療支援部・地域医療連携室
発行責任者：亀田信介 編集責任者：唐鎌房子

〒296-8602 千葉県鴨川市東町929

TEL：04-7099-1261(内線7156)



index

P2 …がん拠点病院推進センターより

安房地域で「もしバナ」を育む

「もしバナ啓発プロジェクト」

P3 …第8回地域医療連携交流会 実施報告

P4 …地域医療機関さまより

P5 …当院診療科より

P6 …リハビリテーションの挑戦！

P7 …スタッフひろば

マイブーム

P8 …トピックス 勉強会・研修会スケジュール

がん拠点病院推進センターより

「がん看護専門看護師の活動」

がん看護専門看護師 黒田宏美

がんについて、また、がん看護専門看護師としての活動を紹介します。

がんは、1981年から死因の第1位であり、最近では総死亡の約3割を占めています。男性も女性も2人に1人はがんにかかり、男性では4人に1人、女性では6人に1人ががんで死亡するという時代になり、メディアではがんで亡くなる芸能人の報道が少なくないため、がんが身近なものであることを誰もが感じているのではないのでしょうか。同時に、2015年に10年生存率が発表され、全がんにおける5年生存率は63.1%、10年生存率は58.2%であり、がん医療の進歩により早期発見・早期治療が可能となっているだけでなく、がんという病気が、5年や10年で終わるものではなく、長い経過でとらえる必要があるとされています。

とはいえ、必ずしも「がん＝死」ではないものの、「がん」という言葉から死を連想せずにはいられないことも間違いではないかと思えます。誰にでも必ず訪れる「死」ではありますが、がん罹患したことによって、誰でもない「自分」が「がん」にかかり、遠くはない身近に「死」を感じざるを得ない状況に、突然なという心身の負担は計り知れません。だからこそ、がん患者さまやそのご家族が、がんとともに歩む気持ちをしっかり持って、自分らしく生きることが大切とされています。

現在、私は一般内科病棟に所属しており、がんの治療

中も、終末期も、がん患者さまとご家族が、その人らしく、その家族らしくあることを大切にして生きることができるよう支援することを目指しています。

初めて抗がん剤治療を受ける時、抗がん剤の治療が変わる時、抗がん剤治療ができなくなった時、どの時期においても、がん患者さまは様々な苦しみを抱えながら、生きる意味を探し、希望を持ち続けています。その希望を絶望に変えることなく、患者さま一人ひとりと一緒にがんに向き合い、その患者さまにとっての「生きる力」を高めるかかわりができるように努めています。

また、がん患者さまやご家族の抱える苦しみに、寄り添う医療者の負担も少なくありません。「少しでもがん患者さまの苦痛を軽減したい」と感じていても、「どうやって引き出したらよいのか分からない」、「答えられなかったらどうしよう」と不安が強いこともあるかと思えます。そこで、地域がん診療連携拠点病院の一員として、院内・外におけるがん看護の質向上を目指して、「がん看護勉強会コース研修会」を開催するなど、がん患者さまとその家族だけではなく、がん医療に携わる看護師も対象として、がん関連の認定看護師や他職種と協働して活動を行っています。

私自身は、がん患者でも、がん患者の家族でもありませんので、日々、がん患者さまやご家族に教えていただくことばかりです。ただし、一人ひとり生き方が違うように、がんとの向き合い方もそれぞれではありますが、小林麻央さんのように、「なりたい自分になる」と、少しでも多くのがん患者さまやそのご家族、そして医療者がもう一度思えるように、日々の関わりを大切にしたいと思っています。

～ 安房地域で「もしバナ」を育む ～

もしバナ啓発プロジェクト

第1回：「ACP」と「もしバナ」

鉄蕉会亀田総合病院 疼痛・緩和ケア科 医師/地域医療連携室 室長 蔵本浩一

※もしバナ：もしものための話し合い

※アドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning, 以下 ACP)：年齢や健康状態に関わらず、一個人(成人)がそれぞれの価値観や人生の目標、将来の医療に関する好みを理解し共有し合うプロセス(過程)のこと

私は現在、当院の疼痛・緩和ケア科医師として働いています。5年前から、病院の外に出て、多くの方に「ACP」や「もしバナ」のことを知ってもらい、できる方にはそれらを“自分ごと”として考えてもらうための活動(＝「もしバナ啓発プロジェクト」)を行っています。

この活動を始めた当初、ACPを知っている人は医療者でも少数でした。しかし、この5年の間に状況は一変しました。今やACPは我が国の医療政策の一つに取り上げられ、



第8回地域医療連携交流会

実施報告

日時…平成30年2月7日(水) 18時30分～21時30分
場所…第1部 亀田医療技術専門学校 大ホール
第2部 Kタワー13階ホライゾンホール

参加者数…第1部20施設126名 第2部93名

……………第1部 講演会……………

「地域の取り組みと今後の展望」
講演会に先駆け、蔵本浩一地域医療連携室長の就任の挨拶がありました。

1 「地域包括ケアと災害対策」福祉避難所とともに

(南房総市健康支援課主査 石井恵里子先生)

南房総市は、災害関連死を抑える方策として、災害対策と地域包括ケアシステムの共通点を見出し、地域包括支援センターと市内の全高齢者・障害者施設(25施設)と福祉避難所協定を締結し、災害等支援連絡会を発足させた。福祉避難所は、地域連携のもとで備蓄物品・飲料水の確保と点検、見守りネットワークの運用、避難所受入訓練などの活動を行っている。また、メディカルケアステーションを通じた情報伝達体制の再検討をすすめている。

2 「「こまぐさ」の取り組み」(「ミニニイケア」こまぐさ

所長 福原孝子先生)

館山市に位置する小規模多機能型居宅介護事業所「ミニニイケアこまぐさ」は、利用者自身の能力に応じ、自立した居宅での生活を営めることをめざし、通所・訪問・短期間宿泊サービスを提供している。就業している看護師3名と介護職員10名は、見守り終末期にある

多様な利用者とその家族と丁寧な意思疎通を図り、日々検討しながら「安心をもたらす」支援を行っていることが報告された。

3 「七浦プロジェクト」(医療法人社団桂七浦診療所理

事長 田中かつら先生)

「七浦プロジェクト」は、地域住民の住みやすさを目標に、高齢化がすすむ南房総市千倉町の「旧七浦小学校」を医療、介護、生活支援、コミュニティスペースに活用する事業。旧小学校の医療エリアには2017年11月に田中先生が七浦診療所を開設。今後は病児保育や、介護に通所リハビリテーションなどをはじめ、生活に食料・日用品などの販売などの計画がすすめられている。

4 「食形態の見える化」房総地域の食連携を目指し

て」(亀田総合病院栄養管理室室長 和田聡子先生)

地域の医療・福祉機関で提供されている摂食嚥下障害者への食形態とその呼称は千差万別なため、窒息・誤嚥リスクの要因になっている。亀田総合病院では、町田市食の連携プロジェクトを参考に、「おかず形態一覧法」と「お茶とろみの基準」の可視化を試みている。現在、鴨川市・安房栄養士会の協力の基で、「食の連携プロジェクト」を立ち上げ、医療者・介護者・ケアマネージャーなどが活用できる食形態を安房保健所のHPに掲載し、栄養ケアステーション開設を予定している。

……………第2部 懇親会……………

参加者の皆さんは、寿司・グラタン・ピザ・デザートなどをいただきながら、所属機関・事業所ごとの紹介をうけ、参加者相互で親交を深める機会となりました。

えるかどうかはわからない、と思って頂いた方がいいと思います。

どうして時間と労力を割いてまで、そんな(役に立つかどうかわからない)ことを行っているのか。

これからしばらくの間、ここで連載する機会を頂きましたので、この地域で育む「もしバナ啓発プロジェクト」の意義や内容、参加者の声や活動を通して得た私たち自身の学びや気づきをシェアしていけたらと思っています。



大学の入試問題にも採用されるほど注目を浴びています。

また活動開始当初、ACPの主な対象は、ご高齢の方や何らかの病を患った方々というイメージがありましたが、先の定義からも分かる通り、ACPは病気の有無によらず、**全ての成人**を対象にした話し合いと言われるようになりました。

ACPは実際に深刻な病気を患ってから行うのは難しいと言われています。その反面、健康成人が行うACPは往々にして曖昧なものになります。つまり実際に病気になった時に、前もって話し合っていた内容が使えるかという、そうではない場合も多いということです。私たちが行なっている「もしバナ啓発プロジェクト」でも同じことが言えます。実際にもしものことが起こった場合に使

地域医療機関さまより



川邊整形外科クリニック

院長 川邊 昭仁



はじめに

私の生まれ故郷である鴨川市に川邊整形外科クリニックを開業し、平成30年4月で4年が経過いたします。

開院前の十数年は亀田総合病院、館山の安房地域医療センターに勤務し、地域のみなさま方の治療に対応させていただくとともに、数多くの貴重な経験を積ませていただきました。私の整形外科医としての知識・技術、そのバックグラウンドは亀田メディカルセンターにあると言っても過言ではありません。開院前、そして現在もお世話になっている亀田メディカルセンター・安房地域医療センターの先生方・コメディカルのみなさま方に深く感謝いたします。

当院の特色・特徴

当院は小さなクリニックではありますが、地域での認知度も少しずつ上がり、日中はお年寄りを中心に、夕方は仕事帰りの社会人・学校や部活帰りの学生らが来院し、患者さま・付き添い家族の方同士がご近所またはお知り合いであったりと、待合室での会話も弾むのでしょうか、当地域におけるサロンのような温かい雰囲気に包まれております。

当院が開院する以前は、午後も外来診療を行っている整形外科は少なく、痛みがあっても、怪我をしても、そのまま様子を見る、救急外来を受診する、もしくは後日あらためて病院を受診するといったように、速やかな整形外科受診を断念・躊躇せざるを得ない環境にありました。

小さな擦り傷、打撲・捻挫などの怪我でも、ちょっとした痛み・しびれ・違和感でも、速やかに、気軽に、そして何よりも午前午後を問わず整形外科専門医に相談・診察してもらえ



る当院が開院したことは地域のみなさまにとっても有益であったのではと考えます。

整形外科疾患は骨折・捻挫などの外傷から変形性関節症など変性疾患、職業・スポーツによる障害など四肢・体幹と多岐にわたります。当院では初期評価・診断から投薬・各種トリガー・ブロック注射、物理療法～リハビリテーションなど、保存治療でできる限り患者さまの希望に沿えるよう、一つ一つ丁寧に対応しております。しかし保存治療では難しいと判断される場合は患者さまと相談・アドバイスをし、積極的な治療・手術適応があるものについては適切な時期に、当地であれば亀田メディカルセンター整形外科・スポーツ医学科・脊椎脊髄外科へご紹介させていただけるよう心がけております。

今後の目標

現在、当院が力を入れているのは健康寿命・余命を延ばすためのサポートです。整形外科としてできるアプローチは、四肢体幹の筋力維持・強化～転倒予防、さらには骨粗鬆症による脊椎圧迫骨折・大腿骨頸部骨折の予防となるでしょうか。これら骨折を生じると余命が短くなるという報告もあり、転倒～骨折を防ぐことが寿命・余命の改善に繋がるのではと考えております。

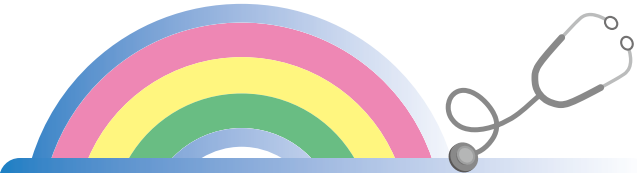
その目的のため、当院ではまだ一般的なクリニックでは普及率が低い、体幹用（腰椎・大腿骨）DEXA装置を有し、これに基づき適切な骨粗鬆症評価・治療を行っております。また昨年夏には転倒予防および下肢の筋力強化・トレーニングのための有効な機器としてPOWER PLATE（株式会社プロティア・ジャパン）を導入、スタッフを研修会へ積極的に参加させて最新の機器・知識を用いたトレーニングを開始しております。これを高齢の方々も含め、適応があるみなさま方へ開放し転倒予防につなげばと考えております。



↑ DEXA装置



↓ POWER PLATE



当院診療科より

感染症科
医長 鈴木 大介



感染症科は微生物が起こす疾患を専門に扱う診療科です。細川直登部長以下3人の指導医と9人のフェローが所属しています（うち3人は成田赤十字病院に出身中）。フェローは6～12年目の内科医・小児科医で、感染症専門医を目指して3年間のフェローシップ・プログラムに取り組みます。卒業生は東北から九州まで全国各地で専門家として活躍しています。日常的には、以下のような活動に取り組んでいます。

一般的な感染症診療

不明熱の診断、重症感染症・耐性菌による感染症の治療、薬剤アレルギー患者での抗菌薬選択など、各診療科からのコンサルトに対して、最新のエビデンスや専門家としての経験を元に、個々の患者に合わせた治療を提案し、主治医と協力しながら診療を行っています。また、血液培養が陽性になった全ての患者を併診し、肺炎、腎盂腎炎、蜂窩織炎といった頻度の高い疾患から、心内膜炎、髄膜炎、骨髄炎、壊死性筋膜炎のような比較的稀で重篤な疾患まで幅広く担当しています。

特殊な感染症診療

結核、HIV感染症、梅毒のような専門性の高い感染症の患者は主治医として担当します。当院には結核病床があり、空気感染予防が必要な肺結核患者にも対応できます。またHIV感染症や梅毒といった性感染症は大都市だけの問題ではなく、安房地域でも増えています。HIV感染症は治療法の進歩によって、現在では適切な治療を受ければ健常人と同じように生活でき、

同じように天寿を全うできる疾患となりました。また梅毒も適切に診断・治療すれば治癒する疾患です。これらが疑われる患者さまがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介下さい。

予防接種・旅行外来

感染症に罹った後の治療だけでなく、罹る前の“予防”も私たちの重要な任務です。小児ワクチンや肺炎球菌ワクチンのような一般的なものの以外に、農作業など屋外で活動する方の破傷風トキソイド、妊娠を考えている女性とご家族の風疹・麻疹・水痘・おたふくかぜワクチンなど、様々な予防接種を提供しています。脾臓摘出後や臓器移植後など免疫不全患者の予防接種も行っています。旅行外来では海外渡航前の予防接種相談や、帰国後の診療を行っています。渡航地域・期間や活動内容を考慮して必要なワクチンや予防内服薬を提案すると同時に、小児期に打ちそびれたワクチンや追加接種が必要なワクチンの見直しも行います。帰国後診療では、東南アジアで多いデング熱や、治療が遅れると命にかかわる熱帯熱マラリアにも対応します。予防接種をご希望の患者さま、帰国後に症状が出た患者さまなどいらっしゃいましたら、ぜひご紹介下さい。患者さまの中には渡航歴を自己申告されない方もいらっしゃいます。ぜひ一度、できれば全ての患者さまに海外渡航歴を聞いて頂けると幸いです。

抗菌薬適正使用支援チーム

政府は2016年に「薬剤耐性アクションプラン」を策定し、不要な抗菌薬の処方削減を促しています。今年度の診療報酬改定でも「抗菌薬適正使用支援チームの取組に係る加算」が新設されるなど、国を挙げた抗菌薬適正使用・耐性菌対策が進行中です。当科では以前から抗菌薬適正使用に取り組んでまいりました。感染症が疑われる患者がいたら、丁寧に診察して感染臓器を特定する。その臓器に感染しやすい微生物を想定して抗菌薬を選択する。抗菌薬投与前に必ず培養を提出する。培養結果に合わせて、より狭域スペクトラムの抗菌薬に変更する。これにより耐性菌の出現を最低限に抑えつつ、患者さまに最大限の治療効果を提供することができます。このようなアプローチを院内外の医師・薬剤師の方々にも知って頂くべく、毎年『亀田感染症セミナー』を開催していますので、よろしければご参加下さい。

リハビリ テーションの 挑戦!



第9回

「小児の就学援助， 教育機関との連携」

リハビリテーション室 言語聴覚士 二ノ形 恵

言語聴覚士とは言語やコミュニケーション、高次脳機能とよばれる記憶や注意・集中する力に苦手さがある小児から成人の方に対して、支援をする職種です。「発音の練習をする人？」と思われる方も多くいると思います。もちろん、発音の練習を行うこともありますが、発音を含めた「話すこと」、「聞くこと」など人と関わる時に必要な『コミュニケーション』全般について関わります。

コミュニケーションが苦手となる要因として、言葉が出なくなる失語症や、一度に複数のことを言われると混乱する高次脳機能障害、独特の物の見方や感じ方から、集団生活や人とのやりとりで難しさがみられる自閉症スペクトラム障害等の発達障害があげられます。

【発達障害とは】

発達障害の特徴があると複雑な言葉の理解が難しかったり、一方的に話し続けたり、急に話しの転換をしたり、やりとりがうまくいなくなることがあります。また、急な予定やルール変更が苦手であったり、場所などが変わると不安に感じやすかったりといった特徴から、日常生活場面で不安定になったり、イライラしやすくなったりすることがあります。さらに、何が嫌なのかを伝えることが苦手なため、周囲の人は理由がわからずに困惑するといったことも出てくる場合があります。

これらの特徴はスペクトラム（曖昧な境界をもちながら連続している）として考えられており、どこからが障害になるのかという線引きは曖昧です。さらに言葉や考え方・捉え方は目に見えないため、わかりにくい障害ともいわれています。ま

た、診断がついたとしても得意なことや不得意なこと、困り方、表現の仕方はその人それぞれです。

【実際の言語聴覚士の関わり】

検査から一人一人の発達の特徴をしっかりと評価し、困ったことがあればそれがどうして起こるのか、長い目で見て今何が必要なのかを本人・ご家族と話し合いながら、過ごし方や関わり方についてお話をさせていただきます。お子さんであれば、遊びを中心としてコミュニケーションの中で表現をどのように行うのか、どう伝えればいいのか本人の行いやすい方法を見つけていきます。リハビリというと、訓練というイメージがあると思いますが、そうではなく、どのようにすれば伝わりやすくなるのか、本人や周囲が困ったことがあれば解決できる方法がないか話し合いながらすすめています。

【教育機関との連携】

子ども達は多くの時間を家庭、保育園・幼稚園、学校で過ごしています。わかりにくい苦手さをもつ子ども達と関わる時に、そのわかりにくさをしてできるだけ具体的に、何故そのような行動が起こるのか周囲がわかって接するだけで、安心して過ごしやすいくなります。

当院では鴨川市、南房総市の専門家チームに属し、巡回相談も年に数回行い、実際の幼稚園や学校現場でよりよい関わり方について情報共有や話し合いを行っています。また、認定こども園 OURS（あわーず）へ週に1度出向き、集団の中で過ごす子ども達の中で、困っていることやより良い環境を提供できないかということについて先生方と相談する等の取り組みも行っています。



スタッフ ひろば

地域医療連携室
メンバーから

今回のご紹介内容

・氏名

①部署 / 職種

②一番好きな野菜

③チカラウタ



草薙 洋

- ①診療部 消化器外科 医師
- ②オクラ
- ③イマジン(ジョンレノン)



蔵本 浩一

- ①診療部 緩和ケア科 医師
- ②豆もやし
- ③いすゞのトラック (KAZCO)



丸山 祝子

- ①看護管理部 助産師
- ②きゅうり
- ③世界に一つだけの花 (SMAP)



杉田 登子

- ①地域医療連携室 看護師
- ②トマト
- ③ファイト (中島みゆき)



入月 修司

- ①看護管理部 看護師
- ②レタス
- ③奏逢 ~Bank Band のテーマ~ (bankband)



打野 弘子

- ①総合相談室 看護師
- ②トマト
- ③負けないで (ZARD)



吉野 有美子

- ①総合相談室 看護師
- ②トマト
- ③愛よ愛よ (夏川りみ)



安室 修

- ①薬剤部 薬剤師
- ②ブロッコリー
- ③人にやさしく (THE BLUE HEARTS)



鎌田 喜子

- ①総合相談室 MSW
- ②白菜
- ③TSUNAMI (サザンオールスターズ)



児玉 照光

- ①総合相談室 MSW
- ②レタス
- ③リンダリンダ (THE BLUE HEARTS)



新田 静江

- ①亀田医療大学 老年・在宅看護学領域 教員 (看護師)
- ②ブロッコリー
- ③特にありません



栗栖 千幸

- ①亀田医療大学 教員 (看護師)
- ②トウモロコシ
- ③負けないで (ZARD)



中村 雅代

- ①地域医療連携室 事務
- ②ブロッコリー
- ③Hero (安室奈美恵)



林 裕子

- ①地域医療連携室 事務
- ②ナス
- ③ユニゾン (Superfly)



吉野 希望

- ①地域医療連携室 事務
- ②オクラ
- ③いつかまたここで (B'z)



番場 陽平

- ①情報戦略室 事務
- ②新玉葱
- ③Start Me Up (The Rolling Stones)



大橋 洋子

- ①地域医療連携室 事務
- ②ナス
- ③A Whole new world (アラジン)



黒川 亜純

- ①地域医療連携室 事務
- ②きゅうり
- ③HONEY BEAT (V6)



唐鎌 房子

- ①地域医療連携室 事務
- ②ごぼう
- ③遠く遠く (槇原敬之)

吉野希望ですが、2018年3月31日付で退職となりました。大変お世話になりました。

亀田総合病院スタッフの マイブーム

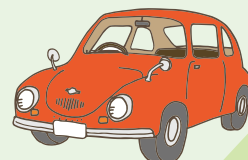
「車のナンバー」

休日の夕方は、1時間ジョギングすると決めているが、寒い日や暑い日は、ちょっと自分にやさしくなってしまう。気分転換に音楽をイヤホンで聴きながら歩道を歩いていると、つつい車のナンバーを眺めてしまう。購入時の配番で何も気にしない人もいるし、語呂合わせがどうもできない数字も沢山あるが、勝手に妄想して楽しんでいる。

中でも、「11222はいい夫婦」人気の番号・「773は子どもの名前がななみ」・「373は皆さん」・「2918は肉い

いわ」・「6974はろくでなし」・「8341は優しい人」・「4989は四苦八苦」・「2016は購入した年」・「531は誕生日」・「・・・1は一番が好き」・「555は行けいけGoGo」・「9696苦労が二重でどうかなあとも思うが髪が黒々もあるね」・「5678は余り好かれない4と9の間」とか「4753は2桁づつ足して100になった」とか、「3824は3×8=24」・「777は趣味がパチンコ」かな「4649はよろしく」と色々想像してします。自分が今度車を購入し新しいナンバーを付ける時は、職員番号を付けよう決めている。

235



勉強会・研修会スケジュール

昨年度の勉強会・研修会に参加下さいまして
ありがとうございました。

1. マインドフルネス勉強会 3回シリーズ

日時：1月14日（日） 9:00～16:00 （18名参加）



2. がん就労支援講演会

日時：1月20日（土） 13:30～16:00 （15名参加）



3. 第8回地域医療連携交流会

*詳しくはメディカルレポートをご覧ください。

日時：2月7日（水） 18:30～21:30

今回のテーマは、『地域の取り組みと今後の展望』
として4演題発表頂きました。

講演会は20施設126名にご参加頂き、懇親会には
93名が参加くださいました。ありがとうございました。



4. がんのリハビリテーション講演会

日時：2月9日（金） 18:00～19:00 （42名参加）



* 来年度の予定が決まりましたらご案内させていただきますので、どうぞご参加の程よろしくお願い致します。